

—大正9年の文部省主催生活改善講習会における住宅関係の講演内容について—

○昭和女大 磯野さとみ 東工大附属工高 内田青蔵

生活改善同盟会は、最初に発表した『住宅改善の方針』を基として、改善内容の調査検討及び改善内容の出版物による発表や、理想的モデル住宅として平和博文化村への小住宅出品を行っている。住宅改善の方針に始まる住宅改良の提案内容を検討した住宅改善調査委員会の主要委員である佐野利器・田村剛・木檜恕一は、委員会設立前の同盟会発会式の翌日から始まった文部省主催の生活改善講習会で、住宅改善関係の講演を行っている。本研究では、この生活改善講習会で行われた3名の講演内容について報告する。

生活改善講習会は、第一回社会教育講習会として文部省主催のもと大正9年1月26日から一週間に亘り東京の女子高等師範学校で開催された。講習会では講演は11題あり、その内3題が住宅関係である。佐野は講演「住宅改善」で住宅の利便・衛生・保安及び都市住居について、木檜は講演「住宅家具」で家具改善の目的、政策上・経済上の改良の要点、工芸教育の改善について、田村は講演「庭園について」で休養の場として住宅の庭園と都市の公園についてそれぞれ話をしている。同盟会は、大正9年7月『住宅改善の方針』として、1)住宅は椅子式に、2)住宅の間取りを家族本位に、3)住宅の構造及び設備は衛生及び防災等実用に重きを置く、4)庭園は保険防災等の実用重視、5)家具は堅牢に、6)大都市での共同住宅アパートメント・田園都市施設の奨励、の6項目を発表しているが、この6項目と3講師の講演内容を照合すると、佐野は1)2)3)6)、田村は4)、木檜は1)5)を含む内容であることが判る。このことから生活改善講習会の講演内容は、生活改善同盟会が発表する『住宅改善の方針』の根底を成す内容であったと考えることが出来る。